



SUIBARA ROTARY

通算第 2 9 7 3 回 2 0 2 4 年(R 6) 8 月 2 1 日 第 2 例会 第 5 号



本年度 RI テーマ RI 会長ステファニーA.アーチック
「ロータリーのマジック」
本年度地区テーマ 地区ガバナー 南雲博文
「ロータリーはステージ・みんな輝く！」
本年度水原 RC テーマ 会長 永松健太郎
「因往推来（いんおうすいらい）～100 年続
くクラブに」

□ 会 長／永松健太郎
□ 幹 事／臼井 直哉
□ 広報委員長／加藤宏隆

出席報告				
当日	在籍数	出席数	算定対象数	出席率
	34	22	30	73.3%
お客様				

プログラム予告	
8月28日	通常例会（卓話 梶山貞芳）
9月 3日（火）	ガバナー公式訪問（豊栄）
9月 4日	休会
9月11日	理事会・通常例会（卓話 小林泰典）
9月18日	夜間例会（五十嵐邸ガーデン）
9月24日	地区大会記念ゴルフ大会（長岡CC）
9月25日	通常例会（卓話 中村 満）
	☆はゲストスピーカー

SAA：荏澤和哉さん

開会の点鐘…永松会長

ロータリーソング「我らの生業」斉唱、
「四つのテスト」唱和

【会長挨拶】永松会長

最近またコロナが流行ってきました。
皆さん、うがい手洗いをこまめにして注
意しましょう。今年のお盆休みは比較的
長い期間で久しぶりに仕事が忙しかった
のですが、それでもコロナ前に比較すると
稼働数は少ないです。1組当たりの人数

以前は4～5人だったのが、今は2～3人と
なっています。そして、和歌山と九州で地震
があり、東北地方で台風の被害があり多数の
キャンセルが出たそうです。

キャンセル料金については事前にカード決
済のお客様が多いですが、それ以外の場合は
直接お客様に請求することになります。基本
的には7日前からキャンセル料が発生しま
す。30%から始まって3日前は50%、当日
は100%という規定の宿が多いです。今回の
様な自然災害で自宅が被害を受けたとか、交
通機関が動かなくて行けないという場合には

キャンセル料を頂かないという場合もあります。時々ごねるお客様もいます。経験から得たことですが、「自分は良いお客様でいよう」ということです。礼儀正しい人には礼儀正しく接し、無礼な人にはそれなりの対応をしようということです。人によって態度を変えるなどと言いますが、毅然とした対応をしないと後味が悪いケースが多いです。皆様も良いお客様になっていただければと思います。

【幹事報告】 臼井幹事

- ・新発田中央 RC から創立 30 周年記念式典の案内が届いています。小林副会長と幹事出席します。
- ・他クラブから例会変更の案内
- ・9月3日のガバナー公式訪問のスケジュールは詳細が決まっていますが、変更なければ予定通り2時50分天朝閣集合、5時から懇親会となります。

【委員会報告】

・奉仕活動委員会…羽田庄一さん

防犯協会に防犯機能付き電話を寄付しますが、30日に永松会長と私が市長室に行って贈呈式をしたいと思います。10月の広報に募集を載せて11月に抽選会の予定です。

・ゴルフ同好会…五十嵐弘行さん

地区大会記念ゴルフ大会には参加者が6人です。9月24日長岡 CC 豊栄 RC との親睦ゴルフ大会ですが、現在4人参加の予定です。

20日間入院したため、足腰が弱ってしまいました。ゴルフ大会に向けて頑張ってトレーニング中です。

・出席委員会…若月正和さん

本日の出席は22人で出席率は73.3%でした。

・ニコニコボックス…梶山貞芳さん

○退院しました…五十嵐弘行さん

○卓話無事終了…喜多美俊さん

○早退1件

本日合計…8,500円

本年累計…94,500円

【卓話】 喜多美俊さん

本当は山根先生の認知症についての話をしたいと思ったのです。初期の段階では生活習慣の改善や食事療法とか薬で進行を遅らせることができるそうです。物忘れとか酒を飲んだ時のことを忘れていているというのは認知症ではないです。私は野菜中心の薄味の味噌汁などを食べていたら、塩辛いのが飲めなくなりました。体温も正常でコロナにもかかりませんでした。

今日は「南海トラフ巨大地震」の恐怖を煽る政府、絶対に“口に出せない”本当の狙いは？」について話します

「コロナの時と同じで恐怖を煽り過ぎて経済が冷え込んでしまう」

宮崎県沖の日向灘を震源とする震度6弱の地震を受けて初めて発出された「南海トラフ地震臨時情報」が批判を受けている。

お盆休みに重なったということで、観光地で宿泊キャンセルが相次いだことに加えて、一部で水や食料品の買いだめをする動きもあり、コロナ禍を想起させるような「自粛パニック」が起きているからだ。そこに加えて、ここまで叩かれてしまっている背景には、地震予測に対して「どうせ地震学者が予算獲得のために話を大袈裟に盛っているんだろ」という否定的な意見が社会に広がってきたことも大きい。

きっかけは昨年8月に発売された「南海トラフ地震の真実」（東京新聞）だ。著者は中日新聞記者の小沢慧一氏。ある学者から「南海トラフは発生確率の高さでえこひい